

憶障害を呈し、治療薬変更によって改善した症例に脳血流 SPECT を施行した。43 歳よりてんかん発作出現。複雑部分発作が数秒間続く。薬を服用するも発作は一日に数回おこる。47 歳の頃より徐々に記憶障害がめだつ。入院後経過では VPA、CZP を CBZ に変更したところ発作は消失、記憶障害も著明に改善した。記憶障害時の ^{99m}Tc -HMPAO による局所脳血流測定では大脳平均血流量は 36 ml/100 g/min と低下し、特に大脳皮質の血流低下がめだつた。17 か月後の改善時には大脳平均血流量は 44 ml と増加し、皮質での増加がめだつた。SPECT は焦点の検出のみならず、記憶障害をはじめとするてんかんに関連した症状または治療薬の副作用発現の客観的評価に有用である。

4. Neuro-Behçet 病の SPECT 像

菊池 善郎 大島 統男 白井 辰夫
伴 茂之 東 静香 古井 滋
安河内 浩 (帝京大・放)

Neuro-Behçet 病患者 3 例に施行された ^{99m}Tc -HMPAO 脳血流 SPECT に検討を加え、併せて CT、MRI との比較も行ったので報告する。対象はいずれも Behçet 病にて治療、経過観察中で、現在神経学的に脳神経症状を有する neuro-Behçet 病の症例である。CT、MRI では異常なしが 2 例と皮質の萎縮と脳室軽度拡大を認めるものが 1 例であったが、SPECT では 3 例とも異常所見を認めた。すなわち、前頭葉および側頭葉における集積低下や基底核の不对称、橋の描出不良などが認められた。以上のことより neuro-Behçet 病における ^{99m}Tc -HMPAO による脳血流 SPECT の有用性が示唆された。

5. Parkinson 病と進行性核上麻痺は ^{123}I -IMP による定量的脳血流測定と分布容積測定により鑑別できる

小田野行男 大久保真樹 高橋 直也
(新潟大・放)

^{123}I -IMP と SPECT を用いて測定した脳血流 (rCBF) と分布容積 (Vd) を用いて Parkinson 病 (PD) と進行性核上麻痺 (PSP) を鑑別できるかどうかを検討した。rCBF はマイクロスフェア法に基づく 1 点動脈採血

法により、Vd は Magic square 法により測定した。rCBF と Vd 測定法の精度は非線形最小二乗法にて評価したところ両者はよい相関を示した。PD は、rCBF、Vd とともに全脳で瀰漫性に低下し、PSP は、rCBF は前頭葉と線条体で低下していたが、Vd は全領域で正常範囲であった。PD 病と初期の PSP は臨床的に鑑別が困難であるが、rCBF と Vd を測定することにより両者を鑑別することができると思われた。

6. 椎骨 SPECT における facet joint の集積は facet syndrome を意味するのか？

小須田 茂 横山 久朗 新井 眞二
草野 正一 (防衛医大・放)

骨シンチグラフィ、Planar および SPECT 像を施行し、facet joints または棘突起のいずれかまたは両方に集積を示し、8 か月以上経過観察しえた 17 例 (27 病巣) を対象とした。方法は、 ^{99m}Tc -MDP または -HMDP 静注後 3~4 時間にて Planar および SPECT 像を撮像。装置は三検出器型 SPECT 専用装置を用いた。

その結果、SPECT 像の transaxial 像から 5 つの集積分布パターンに分類できた。骨 SPECT 像は Planar 像では確認できない facet joint の集積を明瞭に描出した。両側 facet joints の集積は facet syndrome を含む変形性脊椎症、強直性脊椎炎を示唆する所見と考えられ、facet joints のほか、棘突起にも集積がみられる場合がある (20%, 4/20)。facet joint の片側性集積、棘突起のみの集積には、骨転移が存在する場合があります (29%, 2/7)、注意すべきである。

7. 骨盤 Insufficiency fracture の画像診断

川本 雅美 小野 慈
(神奈川県がんセ・放)

症例：71 歳女性。子宮頸癌 stage IIb の診断で放射線治療施行される。経過良好であったが 3 年後に臀部痛が出現。CT では異常所見指摘されず。骨シンチグラムで仙骨に異常集積を認め、MRI でも同部に異常信号が認められたため、骨転移と判断される。半年後の CT で仙骨に骨折線と骨硬化像が明らかとなり、Insufficiency fracture と診断される。

Insufficiency fracture はストレス骨折の一種で、放射線治療や骨粗鬆症などが原因で脆弱になった骨に